

「囲碁」が語源のことばたち～日常には こんなに囲碁が あふれている

囲碁は歴史のあるゲームであり、その間に多くの人々に愛されてきました。そのため、私たちがふだんよく使うことばの中にも、囲碁に由来するものが数多くあります。みなさん、何か思いつきますか？ ……。

「……ダメだ、思いつかない」「ほら出た！」「えっ？」「『ダメ』もそうなんです」

囲碁は黒と白の陣取りゲームだと言いましたが、「ダメ(駄目)」というのは、黒の陣地と白の陣地に挟まれるなどして、そこへ石を打っても白黒どちらの陣地も増えない場所を言います。「価値が無い」「してはいけない」といった「ダメ」の語の意味はここから来ています。さらに「駄目を押す」とか「駄目押し」というのは、終局の後、得点計算をする際に白黒交互に石を置いて「駄目」を埋めて、計算が分かりやすいようにする作業をすることから「とどめを刺す」ことを言うようになったと言われています。

ほかにも、例えば「物事进行处理するときの決まったやり方」のことを「定石」と言いますが、これは、囲碁でゲームの序盤のよくある場面で、お互いが最善の手となるように打ち合う、ある程度決まったパターンのことです。

また、囲碁ではふつう一手ずつ交互に石を置いていきますが、相手が自分より明らかに強い場合には、ハンデとして先に石を一つ置かせてもらってから始める、ということを行います。ここから、相手の優れた実力を認めて敬意をはらうことを「一目置く」と言うようになりました。

さらに「岡目八目(傍目八目)」とも言います。「岡目(傍目)」は、他人がしていることを傍で見ていること。それで、実際に対局している当人同士よりも、「岡目(傍目)」の人のほうが、案外八目(八手)先まで簡単に見通せてしまうことがあるということから、第三者のほうが状況や利害・損得などを正しく判断できるということを「岡目八目」と言うようになりました。

囲碁に由来する言葉はまだたくさんあります。囲碁はこんなに日本人々に愛されてきたのですね。

「結局、何が言いたいのですか？」

こんなに愛されてきた囲碁という知的なゲームを、君もやってみませんか？

「なんだあ、結局、宣伝かあ」

そうそう、この「結局」も、もともと囲碁の一局の対局の終盤戦のことだ、という説もあるのですよ。

